

スイミー

レオ＝レオ二 作

たにかわ しゅんたろう
谷川 俊太郎 訳

ひろ うみ どこかにちい さかな きょうだい たの く
広い海の どこかに小さな魚の兄弟たちが楽しく暮らしていた。

みんな あか いっぴき からすがい ま くろ
みんな赤いのに、一匹だけは烏貝よりも真っ黒、

でも およ だれ はや なまえ
でも泳ぐのは誰よりも速かった名前はスイミー。

ところが ある日、ひ おそ まぐる なか す
ところが ある日、恐ろしい鮪がお腹を空かせて、

すごい速さで、はや つ こ
すごい速さで、ミサイルみたいに突っ込んできた。

ひとくち まぐる ちい あか さかな いっぴきのこ の こ
一口で鮪は小さな赤い魚たちを一匹残らず呑み込んだ。

に
逃げたのはスイミーだけ。

スイミーはおよ くら うみ そこ
スイミーは泳いだ。暗い海の底を

こわ さび かな
怖かった、寂しかった、とても悲しかった。

うみ す ば
けれど海には、素晴らしいものがいっぱいあった。

おもしろ み げんき と もと
面白いものを見るたびにスイミーはだんだん元気を取り戻した。

にじいろ
虹色のゼリーのようなくらげ……

すいちゆう い せ え び
水中ブルドーザーみたいな伊勢海老……

み さかな み いと ば
見たこともない魚さかなたち、見えない糸で引っ張られてる……

ドロップみたいないわ は こんぶ はやし
ドロップみたいな岩から 生えてる、昆布やわかめの林……

うなぎ かお み わす なが
うなぎ。顔を見るころには、しっぽを忘れてるほど長い……

かぜ ゆ ももいろ や し き
そして、風に揺れる桃色の椰子の木みたいなイソギンチャク

そのとき、岩陰いわかげにスイミーみは見つけた。

スイミーのとそっくりの、小さな魚ちい さかな きょうだいの兄弟たち

スイミーは言った。

「出てこいよ。みんなで遊ぼう。面白いおもしろものがいっぱいだよ！」

小さな赤い魚ちい あか さかなたちは答えた。こた

「だめだよ。大きな魚おお さかなに食べられてしまうよ。」

「だけど、いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ。何とかなん かんが考えなくちゃ。」

スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。

それから突然とつぜんスイミーは叫んだ。さけ

「そうだ。みんな一緒に泳ぐんだ。海で一番大きな魚うみ いちばんおお さかなのふりをして。」

スイミーは教えた。決して離ればなれにならないこと。みんな持ち場も ばを守ること。まも

みんなが一匹いっぴきの大きな魚おお さかなみたいに泳げるようになったとき、スイミーは言った。い

「僕ぼくが目めになろう。」

朝あさの冷たい水つめ みずの中を、昼ひるの輝く光かがや ひかりの中を、みんなは泳ぎ、大きな魚おお さかなを追い出した。お だ